

教員紹介

東 雄一郎 教授	専門分野：米文学
研究内容	アメリカ詩を中心としたモダニズム並びにポストモダニズム研究。19世紀のホイットマンやディキンソンをはじめ、20世紀のエズラ・パウンド、エリオット、ウィリアムズ、ハート・クレイン、カミングズ、ジェイムズ・ライト、ギンズバーグ、21世紀のロバート・フライ、メリー・オリヴァー、チカーノの代表的な詩人、ゲリー・ソトなどを主な研究対象としている。現在、積極的に取り組んでいる研究テーマは、脱アングロ・アメリカン文学、アメリカ文学の越境性、エスニックの多民族的な視座から捉えるアメリカ詩である。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ハート・クレイン詩集・書簡散文選集』南雲堂、1994年 2. 『記憶の宿る場所』(共著)思潮社、2005年 3. 『E. E. Cummings. "In Just" - 無垢の歌』研究社『英語青年』、2005年(11月号) 4. 『木と水と空とーエスニックの地平から』(共著)金星堂、2007年 5. 『エミリー・ディキンソンの牢獄を訪ねる』駒澤大学『英米文学』第42号、2007年 6. 『アメリカ子供詩集』国文社、2008年
逢見 明久 教授	専門分野：シェイクスピア劇の翻案について
研究内容	現在は『ロミオとジュリエット』の由来であるイタリアの物語がどのように成り立ち、シェイクスピアに至るまでに、どのように受容されたのかについて関心がある。それぞれの物語を作者ごとに整理して、比較検討しながら、翻案作家としてのシェイクスピアの個性を見たい。さらに、映画や歌劇なども含めた翻案についても研究課題としている。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『オリヴィエ版映画『リチャード三世』ー三つの戴冠式』、『英米文学』第41号、駒澤大学文学部英米文学科(平成18年) 2. 『ゼフィレリ版映画『ロミオとジュリエット』』、『英米文学』第45号、駒澤大学文学部英米文学科(平成22年) 3. 『マッケラン版映画『リチャード三世』ー現代劇に至る背景について』、『英米文学』第46号、駒澤大学文学部英米文学科(平成23年) 4. 『ロミオとジュリエットの物語におけるヒロインの自死の系譜の考察』、『英米文学』第48号、駒澤大学文学部英米文学科(平成25年) 5. 『ルイーダ・ダ・ポルトの『ジュリエッタの物語』についての考察ーベンドー二版を中心に』、『英米文学』第49号、駒澤大学文学部英米文学科(平成26年)
川崎 明子 准教授	専門分野：イギリス小説
研究内容	小説を中心に言語芸術の可能性を探っている。ブロンテ姉妹やチャールズ・ディケンズ等の19世紀のイギリスの小説家の作品を主に扱っている。中でも語りの技法や歴史表象に注目している。具体的には、小説における語りの形式や語り手の設定は内容をどう限定し印象づけるのか、作品における歴史的要素と作家の個性はどのように統合されているのか、これらは時代によりどう変遷したのかなどである。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ブロンテ小説における病いと看護』春風社、2015年 2. "Japanese Adaptations of <i>Wuthering Heights</i>: Taeko Kono, <i>Gikyoku Arashi-ga-oka</i>, Minae Mizumura, <i>A True Novel</i>, and Nanae Aoyama, <i>Meguri-ito</i>." 日本ブロンテ協会編『ブロンテと19世紀イギリス 日本ブロンテ協会設立30周年記念論集』大阪教育図書、2015年 3. 石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年(主な担当箇所: 19世紀の小説家、「ヴィクトリア時代」、「児童文学」、「恋愛と結婚」)
川崎浩太郎 准教授	専門分野：アメリカ文学
研究内容	ウォルト・ホイットマンとエミリー・ディキンソンを中心として、19世紀アメリカの文学作品を、主に民族、階級、セクシュアリティなどの観点から研究している。また、19世紀末までの作品と、20世紀以降の文学作品や他の表象・文化との関係にも関心がある。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ノンフィクションの英米文学』金星堂 2018年 2. 『私の好きなエミリー・ディキンソンの詩』金星堂 2016年 3. 『アメリカン・ロードの物語学』金星堂 2015年 4. 『亡霊のアメリカ文学』(共著)国文社 2012年 5. 『ホイットマンと19世紀アメリカ』(共著)開文社 2005年
北原 賢一 准教授	専門分野：英語学
研究内容	現代英語の文法・語法現象について、理論言語学(語彙意味論・認知言語学・構文文法・語用論)の観点から研究を行っている。正規表現を使用したコーパス調査に基づいて、文法・語法現象を記述することや、映画や海外TVドラマの中の口語英語の実態にも関心がある。具体的には、項構造の成り立ち(同族目的語、結果目的語、動作表現目的語、軽動詞表現、結果表現、不定詞付き対格表現、補文の構造など)、法助動詞の意味論、時制・アスペクトの仕組み、関係詞の働きなどを研究テーマの中心に据えている。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『英語学と映画英語教育の接点ー Full Metal Jacket (1987) における “You talk the talk. Do you walk the walk?” の翻訳』、『ATEM Journal』22号、2017. 2. 『いわゆる「不定詞付き対格」表現の意味論』『日英語における語彙・構文・談話の関係性ー項構造を決定する要因の記述的解明』、三恵社. 3. 『同族目的語構文と軽動詞構文』『麗澤レビュー』18号、2012. 4. 『動詞dieと同族目的語構文ー語彙・構文的アプローチによる記述的考察ー』『英語語法文法研究』18号、2011. 5. “Cognate object Constructions Are Not Monotransitive Constructions.” <i>Tsukuba English Studies</i> vol.30, 2011. 6. <i>English Cognate Object Constructions and Related Phenomena: A Lexical-Constructional Approach</i>, 2010.

佐藤 真二 教授	専門分野：英語学（音声学）
研究内容	accents of English（地域や社会階級、年齢、性別などによる発音の相違）の研究。 こうした発音の相違は、英語という言語の変化と密接に結びついており、英語の音声および音声体系に関しての、共時的のみならず通時的 研究となる。ロンドンで2000年から2002年にかけて行った実地調査で収集した音声資料を分析し、ロンドンのaccentに関して、二重母音や、 /l/, /r/等の変種などを中心に研究を行った。現在は、intra-speaker variation の研究もあわせて、singerの発音の研究を進めている。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『シェイクスピア大事典』日本図書センター、2002 2. 「London /ei/ variants by social class, gender and age」駒澤大学『英米文学』第38号、2003 3. 「London L Vocalization」駒澤大学『英米文学』第40号、2005 4. 「Word-final /l/ in the lyrics of British popular songs」駒澤大学『英米文学』第44号、2009 5. 「The accent of John Lennon 6 :Live performances and studio recordings」駒澤大学『英米文学』第53号、2018
モート、セーラ 教授	専門分野：日英美術文化比較研究
研究内容	日本美術とイギリスを含めたヨーロッパ美術との比較研究、および美術と文学の関連を主な研究領域としている。とりわけ関心をもっているのは、禅と画、特に14世紀以降の日本の禅の書画家である風外慧薫、白隠慧鶴、太田垣蓮月などであり、彼らの書画に対する思想とヨーロッパの美術思想などとの比較研究を行っている。同様にイギリス小説と美術の関連にも関心をもっている。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「禅と書画とヨーロッパ人」『大法輪』第72巻7号、平成17年7月 138-143頁。 2. <i>Ken Zen Sho: the Zen Calligraphy and Painting of Yamaoka Tesshū</i>. [Shared authorship]. Tokyo: Bunkasha International. 2008. pp. 26-93. 3. 'The Zen Calligraphy of Hakuin Ekaku.' [Individual authorship]. <i>The Middle Way. Journal of the Buddhist Society</i>. Volume 85. No. 2. 2010. pp. 91-98. 4. 「大田垣蓮月の世界—変革の時代を生きた女性芸術家—」『駒澤大学 佛教文学研究』第18号、平成27年1月 173-202頁。 5. 'The Painting and Calligraphy of the Eighteenth-Century Japanese Literati Painter Ike Taiga.' [Individual authorship]. <i>The Transactions of the Asiatic Society of Japan</i>. Fifth Series, Volume 7, 2015, pp. 202-217.
本村 浩二 教授	専門分野：20世紀アメリカ小説
研究内容	近年の文化多元主義やポストコロニアリズムという認識形態のパラダイム・シフトに合わせて、人種、階級、ジェンダー、宗教、地域などの視点を通し文学表象の複雑な様態を領域横断的に捉えることを目指している。主たる研究対象としているのは、アメリカ社会のなかで構造的に周縁化されてきた少数民族集団の文学である。特に、William FaulknerやEudora Weltyといった南部作家、Richard WrightやToni Morrisonといった黒人作家の作品に関心がある。
研究業績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ニューオーリンズのカラード・クレオールとしてのボン」『フォークナー』第19号、松柏社、2017年。 2. 「Absalom, Absalom! におけるThomas Sutpenとキリスト教」『北海道アメリカ文学』第32号、日本アメリカ文学会北海道支部、2016年。 3. 『ターミナル・ビギニング—アメリカの物語と言葉の力』（共著）、論創社、2014年。 4. 『テキストの対話—フォークナーとウェルティの小説を読む』（単著）、論創社、2013年。